



JR 札沼線の 一部廃線を機に振り返る 当別を走る鉄道

JR 札沼線「北海道医療大学駅～新十津川駅間」の運行を2020年5月7日以降廃止することが正式に決定しました（右ページ参照）。当別を走る鉄道には大正時代もしくはそれ以前からの歴史があり、歴史の一部に幕を下ろすことは大変残念なことです。この歴史は後世へ語り継いでいきたいものです。

さて、昨年「当別鉄道今昔」と題したパネルを当別歴史ボランティアの会が作成し、平成30年9月に「福祉まつり」、11月に「当別町文化祭」で展示され、来場者から大きな反響がありました。当時の当別殖民軌道などを懐かしく思いながら、ご覧になった方もいたようです。当別を走る鉄道について、当別歴史ボランティアの会にお話を聞きました。

当別歴史ボランティアの会とは



当別歴史
ボランティアの会
代表
大口弘美さん

当別歴史ボランティアの会は、当別町開拓以後の歴史について調査・伝承を行うことを目的に活動しています。これまでも講演会などで当別の歴史を知ってもらおう活動をしてきましたが、今回はパネル展示をすることにしました。テーマは、これまで盛んに報道されていた「JR 札沼線 北海道医療大学駅以北の廃線問題」から考え、「札沼線の歴史」をテーマに決めました。調査を進めていくうちに、「当別殖民軌道」と「江當軌道」のことを切り離してしまっ

札沼線

運行期間 1934年～現在
(昭和9年～現在)

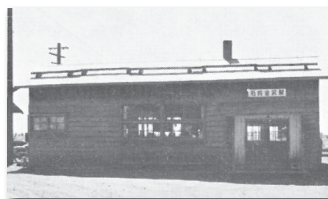


札沼線開通祝賀パレードの様子

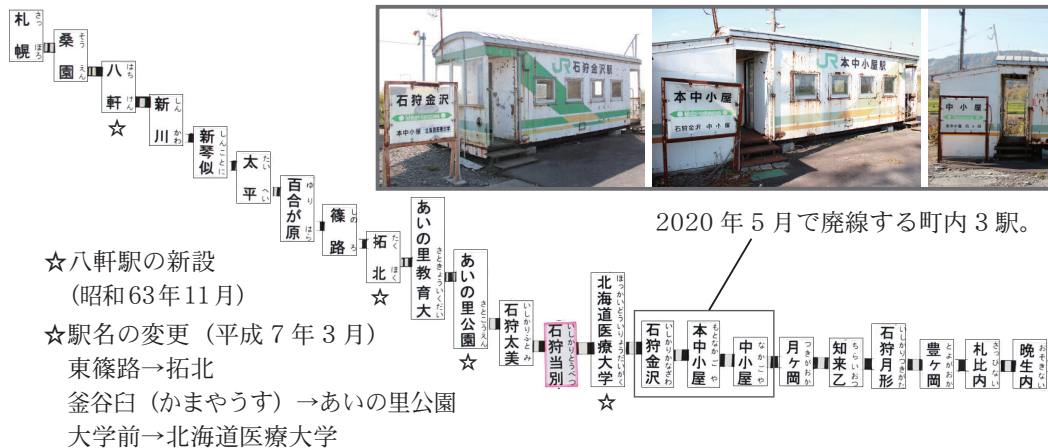


大正時代から鉄道開通を要請、念願の開通！昭和9年の写真と思われる

※以前の石狩金沢駅



※以前の本中小屋駅



JR 札沼線の一部廃線が正式に決定



平成 30 (2018) 年 10 月に札沼線沿線 4 町 (当別町・月形町・浦臼町・新十津川町) が、札沼線「北海道医療大学駅～新十津川駅間」の廃止を容認しました。そして、同年 12 月 20 日には、4 町が正式に

同区間の運行を 2020 年 5 月 7 日以降廃止する同意書を JR 北海道 島田修社長に手渡しました。

路線廃止の決定に伴い、JR の代替となる「石狩当別駅～石狩月形駅間のバス」を 2020 年春から運行できるよう、当別町・月形町・運行事業者が、利用者となる札沼線沿線地域の方々などの意見をお聞きしながら、運行ルートやダイヤなどについて、現在協議を進

めています。

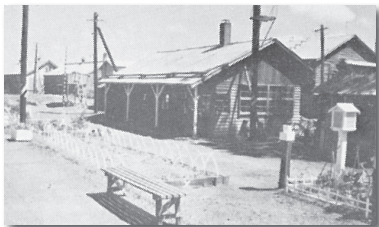
また、今後、札沼線の終着駅となる北海道医療大学駅は、バスターミナル機能を備えた駅として JR 北海道が整備を行い、利用者の利便性向上を図っていきます (その他の JR 北海道から当別町への支援内容は、広報とうべつ平成 30 年 11 月号 p.12 をご覧ください)。

■問合せ 企画課企画振興係
(☎ 23 - 3042)

札沼線 (学園都市線) の沿革

- 1912 (大正 元) 年 鉄道誘致運動の開始
- 1934 (昭和 9) 年 石狩川橋梁の完成、桑園～石狩当別間開業 (25.9km)
新琴似・篠路・石狩太美・石狩当別 各駅新設
- 1935 (昭和 10) 年 石狩当別～浦臼間開業 (36.8km)
石狩金沢・本中小屋・中小屋・石狩月形・札比内・晩生内 各駅新設
- 1944 (昭和 19) 年 石狩当別～石狩月形間、営業休止 (20.4km)
- 1946 (昭和 21) 年 石狩当別～浦臼間、営業再開 (36.8km)
- 1953 (昭和 28) 年 浦臼～雨龍間が営業再開 (26.6km)
- 1956 (昭和 31) 年 雨龍～石狩沼田間営業再開、全線開通 (111.4km)
- 1972 (昭和 47) 年 新十津川～石狩沼田間、営業廃止
- 1982 (昭和 57) 年 大学前駅 (現 北海道医療大学駅) を新設
- 1987 (昭和 62) 年 国鉄分割民営化により、JR 北海道へ継承
- 1991 (平成 3) 年 札沼線の愛称を「学園都市線」に決定
- 2012 (平成 24) 年 桑園駅～北海道医療大学駅間を電化
- 2018 (平成 30) 年 沿線 4 町が北海道医療大学駅～新十津川駅間の廃止を容認

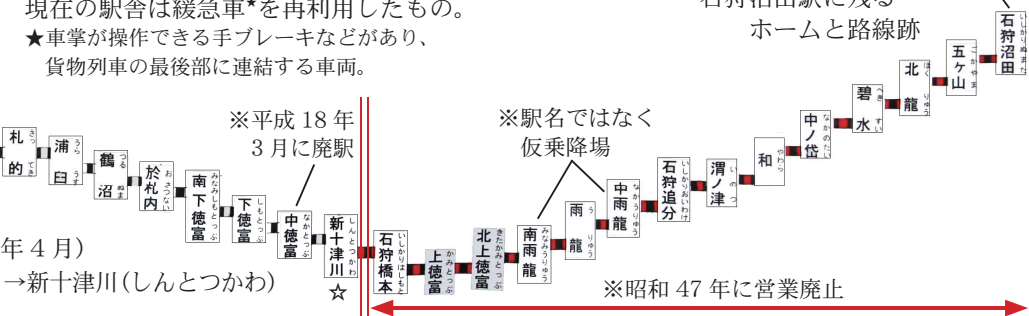
※以前の中小屋駅



現在の駅舎は緩急車*を再利用したもの。
★車掌が操作できる手ブレーキなどがあり、貨物列車の最後部に連結する車両。



石狩沼田駅に残るホームと路線跡



アドバイザー
東前寛治さん



昭和初期には、札幌市から石狩、厚田、浜益各村を經由して増毛既成線に達する「海岸鉄道計画」がありましたが、沿線の増毛などには山道があることから、建設が容易ではなく進捗しなかったようです。その代用線「当別増毛間鉄道」として、当別、青山、浜益、増毛を經由する請願もありましたが、その後に戦争があったために進まなかったようです。この鉄道には、沿線の開発はもちろん、豊富な木材の産出、金銀石炭等の鉱物掘削が期待されていました。このように当別には埋もれた歴史の跡がたくさんあるので、地域の方に知らせていきたいです。

当別殖民軌道

運行期間 1949 ~ 1955 年
(昭和 24 ~ 30 年)



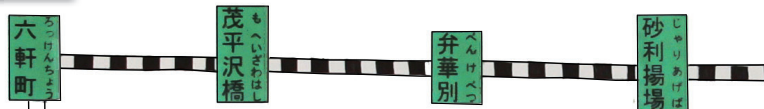
※殖民軌道とは

一般の鉄道・軌道が「地方鉄道法」「軌道法」によるもので安全面などさまざまな規制があったのに対して、殖民軌道は北海道に存在した特殊な軌道で、車両や施設が簡単で軌道法による許認可が不要でした。所有者は国（現 農林水産省）で、実施の管理は管理委託を結んだ市町村が行いました。

計	村日	項目	金額	備
計	村日	項目	金額	備
	村日	項目	金額	備
計	村日	項目	金額	備
計	村日	項目	金額	備

昭和二十二年度当別村殖民軌道期成會早期分子算調書
蔵入之部
蔵出之部

←当別町役場の書庫を調べてみると、「当別村殖民軌道期成會規約（昭和 22 年度）」がありました。当時、当別市街地-青山中央間殖民軌道敷設事業を円滑に運営するために、役場内に期成會事務局が置かれ、青山地区の各部落から寄附金を受けて発足されました。



当別殖民軌道（当別町営軌道）の沿革

- 1947（昭和 22）年 青山地区開拓促進のため着工
- 1949（昭和 24）年 完成区間より順次使用開始
- 1952（昭和 27）年 大袋まで全線開通
- 1953（昭和 28）年 「当別町営軌道」と名称変更
- 1954（昭和 29）年 洞爺丸台風により大被害を受ける
- 1955（昭和 30）年 全線運行停止
- 1956（昭和 31）年 国との協定を破棄し、全線廃止を決定

江當軌道

運行期間 1927 ~ 1934 年
(昭和 2 ~ 9 年)

※江當軌道とは

江別と当別とを結ぶ民間の軌道で、大正 14 年に馬車軌道として、昭和 2 年には蒸気動力で営業しました。昭和 9 年札沼線が開通したことでやむなく運行停止となりました。



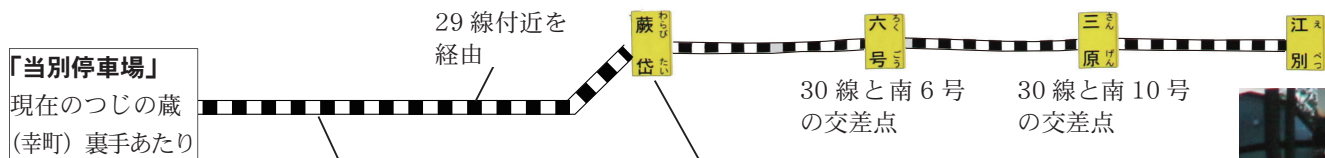
菊地さんが制作した、実物の 1/100 の大きさの「江當軌道の機関車」。当時は、先頭車両・客車 2 両・貨物車 3 両が連結されていたそうです（上の写真は各 1 両）。

江當軌道の沿革

- 1925（大正 14）年 江當軌道特許状交付（馬車軌道）
- 1927（昭和 2）年 蒸気動力への変更許可、当別～江別間全線開通（11.1km、所要時間 40 分）
- 1930（昭和 5）年 冬期間積雪のため運休、以後冬期間は馬そりを使用
- 1934（昭和 9）年 札沼線開業を契機に運行停止
- 1936（昭和 11）年 清算にあたり損失補償が行われた（札沼線開業に伴う）



江當軌道株式会社当別停車場（昭和 2 年）



「当別停車場」
現在のつじの蔵
(幸町) 裏手あたり

国道 275 号栄町交差点、写真右手の歩道側が路線跡（左折…275 号江別方面、右折…石狩当別駅方面）



国道 337 号アンダーパスより当別側 400 m 付近

「史跡標柱」
道道 139 号石狩大橋の手前に江當軌道が敷かれていたことを示す標柱

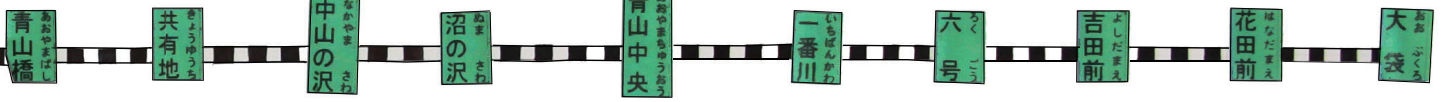




きょうりょう
青山奥橋に残る橋梁



大袋停留所
付近の橋梁



殖民軌道は特殊な軌道で、軌道とは名付けられていましたが、道路の一種として整備されました。当初の動力は馬で、馬車が反対側からきてぶつかりそうになると譲り合っていたようです。当別殖民軌道は当別から青山四番川、大袋まで15の駅があり、木材・砂利などの物資輸送や人々の大切な足として活躍しました。

【菊地さん】

廃線の跡を

確認して回った
菊地眞生さん(上)
金子景次郎さん(下)



軌道の跡地、青山奥の橋梁跡を探していると、川の水中に水没しているのが確認でき、歴史を感じました。イベントの来場者の中には、殖民軌道を懐かしく思いパネルを見てくれる方が多かったです。「この軌道建設に携わった」「学生のころに、軌道を利用して遠足に行った」「この軌道は止まるが多かった」などと話してくれる方もいました。

【金子さん】

江當軌道の跡地を確認するのは本当に苦労しました。駐車場の場所さえもわからないところもありました。農家さんなどを訪ねましたが、「祖父からは、その辺に駐車場があったと聞いたことがある」という、曖昧な情報がほとんどでした。それらの情報をもとに、駅のプラットフォームや給水塔（機関車の水タンク等に水を補給するために駅に設置することが多かった）の跡などを探して回りましたが、難航しました。現在は河川改修などが行われて、当時と川の形が変わっているために、予測も難しかった場所もありました。江當軌道は昭和9年に運行停止となりましたが、昭和18年から民間

による路線バス「当江線」（平成28年3月で廃止）が走っていたことを思うと感慨深いものがあります。

【菊地さん】

イベントの来場者は、江當軌道があったことを知らない方が多かったです。軌道の痕跡を探して歩くと盛土して固まっていたり、植物の生え方が変わっていることから線路跡と考えられる場所がありました。このような場所は、「軌道跡地」として保存し残していけると良いと思います。既に私有地となっている場所もあるので難しいとも思いますが、江當軌

道は私鉄でしたが、当別町の発展に向けて大きく貢献したようです。

札沼線の一部廃線が決定しました。殖民軌道跡地を確認している時にも感じましたが、軌道を廃線した後に、跡地利用などのケアも大切だと思います。その跡地に沿って道路をつくったり、廃線を歴史として残すための跡地利用をしてほしいです。伊達家が入植してからはじまった歴史が続いているので、今回の廃線が無駄にならないようにしてほしいと思います。

【東前さん】

当別歴史ボランティアの会では、一緒に活動していただける会員を随時募集しています。当別の歴史に興味がある方は、ぜひご連絡ください。

■ 当別歴史ボランティアの会事務局

町教委社会教育課文化財・町史編纂係 (☎ 22 - 3834)

※当時の資料等などで、できる限りの確認をしておりますが、内容に相違がある場合にはご了承ください。

